サポセン mail　No.１５５. 2016.2.28 発行

＜発行元＞　特定非営利活動法人　緑区子どもサポートセンター
千葉市緑区誉田町２－２４－１６　ＴＥＬ＆ＦＡＸ　０４３－３０８－４４３６
E-MAIL:kids-support-midori@coffee.ocn.ne.jp
URL:http://saposen.konnjiki.jp/

# 子どもを孤立させない「子ども食堂」

今回はテレビや新聞などでも取り上げられるようになった「子ども食堂」について、豊島子どもWAKUWAKUネットワーク代表の栗林知絵子さんのお話をご紹介したいと思います。

**●「高校行けないかもしれないんだ。」の一言がきっかけで**

２００３年東京都豊島区政７０周年記念事業であそび場ができたことをきっかけに、平日２～５時子どもだけが来るあそび場が開設されました。ある夏休みの夜、近所のスーパーであそび場に来ていた中３の子に「受験勉強がんばってんのー？」って声かけたら、「高校に行けないかもしれないんだ。」とぽつりと。そこから彼の受験サポートが始まりました。

それまでも「昨日からご飯食べてないんだ。」とか、そういうしんどい子どもたちの話を聞いて、どうすればいいんだろうと悩んでいました。正社員と同じように仕事をしているのに、時給千円しかもらえなくて、生活が全然楽にならないシングルマザーとか、とにかくこれは子どもの責任じゃない、社会がなんとかしなくちゃいけないし、できることから自分でなんとかしなくっちゃと思いました。

**●「家族いっしょにご飯たべるの？キモっ！」**

中 3 のその子は最初とても遠慮がちな子だったのですが、うちでお菓子出すとすごい嬉しそうに食べるんです。それで話聞いたら、毎日 500 円ずつお姉ちゃんとお金貰って、それでご飯を食べていることがわかって、「じゃあ、うちでご飯食べていきな」って言ったんです。でも彼最初「みんな一緒にご飯食べるの？キモっ！」って言ったんですよ！それまで、スーパーでお弁当とか買っていたんだけど、３割引のシールの意味がわかってなかったり、私たちの常識が常識じゃない子たちがいることを知りました。その後、孤食の子どもたちに団らんできる場所をつくりたいと申し出てくださる方がいて、「こども食堂」が実現しました。

**●「おたがいさまを当たり前に感じる子を増やす」**

あそび場でも大切にしていることは、子どもだけじゃなくて地域の人たちがつながる場所っていうことです。子どもはどうしても親の育児や教育を受け止めざるを得ない存在です。でもいろんな人がいて、いろんな価値観に出会える。「嫌だって言ってもいいんだよ」とか言ってくれる。あそび場には酔っぱらったおじさんとかも来て、子どもに 100 円ずつあげてお菓子を買いに行ったりするけど、「あんなにいい表情しているんだから、まあいいか！」って黙認しちゃう。ハチャメチャな人がいたり、いろんな考えの人がいて折り合いをつけながら生きている。それが私たちが暮らす「まち」だと思うんです。大事なのは「かわいそうな子を救う」ことではなく、「おたがいさまを当たり前に感じる子を増やす」ことです。(記　安藤)

１月あそび塾

予報が２回も雨で変更

# 『昭和の森で泥団子作りが体育館で遊ぼう！になりました』

１月３１日（日）のあそび塾は、昭和の森で泥団子作りの予定でしたが、天気予報で雨の可能性が高く、やむなく大木戸小学校体育館を全面お借りしての室内あそびになりましたが、なんと二週続けて予報が良いほうに外れてしまい、この日も結局雨にはならず・・という日でした。でも、あそび塾の子どもたちと講師の樋口さんは気持ちの切り替えも早く「よーし、体育館全面をこの人数で使えるなんて、そうありません！」と考えてみんなでたくさん身体を使ったあそびをしました。

## ～　アイスブレイク　～

最初のアイスブレークは、みんなの好きな果物でグループを作ったり、生年月日で並んだりしました。その中のゲームで２チームに分け、初めはドッジボールから遊びました。

## ～　ドッチボール　～

大人も入ってプレーオフ！最初はみんな逃げるばかりであまりボールを取りに行きませんでしたが、徐々に思い切って取りに行く子が出てきました。でも大人もそうですが、普段あまりボール投げをしていないと、えっ！という球でポロリをしてしまいます。やっとボールに慣れてきたころに片方のチームが内野ゼロになってしまい、ゲーム終了となりました。もう何ゲームか出来たら本領発揮できた子も居たかもしれませんね。

## ～　おにごっこ　～　ドキドキ鬼・氷鬼　～

次は鬼ごっこしようと樋口さんがみんなに、どんな鬼ごっこがやりたいか？を聞いてくれました。するとさすがは現役小学生、大人は聞いたこともない名前の鬼ごっこが次々に出てきます。その中で「ドキドキ鬼」を提案してくれたみさきちゃんにルール説明をしてもらいました。

これは鬼が誰だかわからずに始まります。みんな目をつぶっていて、鬼をやりたい子が３人ほど黙って手を上げます。そしてそのまま誰が鬼なのかわからないまま、よーいスタート！で一斉に逃げ回ります。逃げているうちに、アッ誰だな！というのが自然とみんなにわかり、捕まってしまった子はその場にしゃがみます。最終的に鬼に捕まらずに逃げきれれば勝ち！という確かにハラハラドキドキの鬼ごっこでした。

次に「氷鬼」をしました。こちらはシンプルで大人もすぐわかります。逃げるのがうまく

てなかなか捕まらない子、何度も捕まっては復活して、を繰り返す子、などどの子も楽しそうに思いっきり体育館中を走り回りました。

～　ハンカチ落とし　～

ちょっと疲れてきたね、ということで次は「ハンカチ落とし」をしました。目をつぶって座ってじっとしてハンカチくるかな～と待っているのも楽しいですよね。

～　段ボールキャタピラ　～

最後は、段ボールキャタピラで２チームに分かれて競争です

これは、大きな段ボールで直径１メートルくらいの輪を作り、その中に入って戦車のキャタピラのように這って進みます。前が見えないので真っすぐに進むのが難しいのと、大人には段ボールが小さくていくら頑張っても少ししか進まないつらさのあるゲームでした。

周りで見ていると簡単そうに見えるのですが、実際に入ってやってみると本当に難しくて大変だ、ということがよくわかりました。これもドッジボールのときと同じ２チームに分かれて競いましたが、なんと、先ほどドッジで負けたチームがここでも負けてしまい、とても悔しい思いをしました。体力的にはさほど差があるようには思えないチーム分けでしたが、何が敗因だったのか、気持ちの問題だったのでしょうか。

～　体を動かした後は、ほっと一息・おやつタイム　～

たくさん遊んだあとは、温かいココアを入れて、おやつをいただき、ほっと一息。

寒いだろうことを考えてココアにしましたが、身体も温まっていて、心配したほどの寒さではありませんでした。でも本当は今頃、昭和の森で泥団子を作っていたはず。

講師の樋口さんは、みんなのために泥団子の仕上げに使う白砂を持ってきてくださっていました。上手に泥団子を作る極意は、とにかく、あきらめずに根気よく、とのこと。

出来ればもう一回、泥団子を作る機会を是非、設けてみんなにその楽しさを味わってもらいたい、という樋口さんの熱意がビンビン伝わってきました。

その白砂をお土産に頂いて、今回のあそび塾は解散となりました。始まりのときには今一つ、気分が乗ってなくてなかなか入れなかった子も最後にはニコニコ顔で帰っていきました。身体をたくさん使って遊び、心も身体もホカホカしていたことでしょう。（大多和）